



学友会 会報

第19号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡坂祝町深萱1301
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

URL▶<http://www.f4.dion.ne.jp/~gakuyu/> E-mail▶gakuyu@f4.dion.ne.jp 学友会直通 070-5646-9113



会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学学友会会長 丹地章夫



本年も会報発刊の時期となりました。会員の皆様方には、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、来年度入学希望者のための体験入学及びキャンパス見学会も実施されます。皆様の周囲にも希望される方がありましたら、どうぞ遠慮なく中日本自動車短大まで御連絡下さい。重ねてお願い致します。

平成十一年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに報告申し上げます。

昨年は、岡山支部・広島支部合同の支部会が岡山において、また、念願でもありました静岡支部の支部会も静岡において開催されました。

両支部役員の方々に始め、支部会員の方々の努力に対し、心より厚く御礼申し上げます。

このような活動が他支部におかれましても活発に行われますことを願ってやみません。

また、母校におかれましては、イタリアのフェラーリ工業専門学校と姉妹協定をされ、新しい組織体制のもと、情熱に燃えた諸先生のご指導のもと、きめ細やかな指

導がなされておりますことを大変嬉しく思っております。

特記すべきは、今年我が母校の卒業生、花岡君が、レーサーとしての旅立ちを致しましたことです。今後の活躍を祈ると共に、同窓生として皆様の応援よろしくお願致します。

また、来年度入学希望者のための体験入学及びキャンパス見学会も実施されます。皆様の周囲にも希望される方がありましたら、どうぞ遠慮なく中日本自動車短大まで御連絡下さい。重ねてお願い致します。

益々厳しい不況と就職難の時代を迎え、卒業生の就職に対しても諸兄のご指導を是非とも賜り、我々の母校、中日本自動車短大が、より発展致しますよう、今後ともお力添え下さい。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大なご協力とご援助を賜りました大学関係者並びにOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。

学友会では、会員の皆様と交流を図るため、ホームページを開設しました。アクセスをお待ちしています。また、メールアドレスも取得しましたので、ご利用下さい。

URL▶<http://www.f4.dion.ne.jp/~gakuyu/>
E-mail▶gakuyu@f4.dion.ne.jp



ご挨拶

中日本自動車短期大学

学 長 有 馬 泉

学友会の皆様、お元気でご活躍のことと存じます。

今年度、自動車工業科は、全国三十九都道府県から五百五十三名の新入生を迎えました。昨年度より、四十三名増です。希望と活力に満ちた大勢の学生を迎えたことは、本学にとって大きな喜びであり、学友会の皆様を始め、関係者の暖かいご支援に厚く御礼申し上げますと共に、今後ともご協力のほどお願い申し上げます。また、専攻科自動車工学専攻には十四名、専攻科車体整備専攻には二十四名入学しました。

昨年度就職率は、長引く経済不況で大変厳しい就職状況の中で、約九十二%でした。これは本学創立以来約一万八千名を越す学友会の皆様方のご活躍により、関係社の本学に対する高い評価と深いご理解が得られているためと思っております。学友会の皆様のご援助をいただきたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

育内容の充実と指導方法の工夫、週一回のゼミナール、後学期から実施した週三回の特別教育、認定試験直前の補講、一部教員の熱心なプライベートな教育指導等、全教員の努力の成果です。ただ、入学してくる学生の学力は年々低下し、特に基礎数学の平均点が低下しつつある中で、合格率は出題内容の難易度あるいは傾向と関係がある可能性が高いので、昨年以上に学生の基礎学力を高めるよう、全教員総力で努力します。

さて、今年度も、中国、韓国、マレーシアから多くの留学生を迎えました。学生がお互いに異文化を理解し、国際感覚を身につけるよい機会と思っております。

また、今年二月二十三日、イタリアの国立フェラーリ工業専門学校と姉妹協定を結びました。この学校は、フェラーリの創業者エンツォ・フェラーリが一九六五年に創立した学校です。今年の入学式に、同校の副校長と教授が列席されました。今後、両校で教員や学生を相互派遣し、積極的に交流を深めていきます。

最後になりましたが、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。



フェラーリ校と提携

中日本自動車短期大学

事務局長 岡田 俊治

同窓生の皆さん、日頃、学友会に対し多大なご協力をいただき、有難く、厚くお礼申し上げます。

さて、母校におきましては、神野学園の理事長に神野哲州氏が着任され、厳しい環境の中にあっても、積極的に学園の発展に取り組みむことを示され、教職員一同新たな気持ちで教育に邁進しております。

二〇〇〇年二月二十三日には、イタリア国立フェラーリ工業専門学校と提携を結び学生並びに教職員の資質の向上を目指して交流を行うことが取り決められました。早速、四月六日の入学式にはバリージニア副校長を迎え、新入生への祝辞をいただくことができました。

今後は、フェラーリの車作りの技術を教育に活かしていきたいと考えており、手始めに、ソーラーカーをフェラーリ工業専門学校と共同製作し、シルクロードを走破する計画を検討しています。

ところで、昨年の学友会報で、同窓生推薦入学試験について皆様にお願いましたところ、同窓生の皆様から二十名の受験生を推薦いただきました。ご推薦いただいた同窓生各位には、紙面を借りて

同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。

また昨年度より、中日本自動車短期大学卒業生のご子息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額（10万円）を免除する制度ができました。

皆様のご子息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用下さい。

くわしくは、連絡綴りをご覧ください。



OB近況

専攻科 第三期生

野村 明生さん

学友会の皆様、私は第二期専攻科を卒業し、現在ヤナセ名古屋支店に勤務しております。この仕事について三年目、現在私は、大学での講義で習わなかったお客様との会話やサービスなどが重要であると感じております。そのため、自分なりに仕事をしながら勉強しているつもりです。なぜそのようなことを入れているのかといえますと、お客様は私達メカニックを「プロ」と認識して下さいますので、普通の整備だけでは満足してはいただけません。そこで私は、なるべくお客様との電話での対応や出張にて修理する場合など、自分自身を気に入ってもらえるように心がけております。

現在日本は不況で、私達が扱っている車の販売台数はかなり落ち込んできております。しかし、この苦しい状況で一生懸命仕事をしていけば、いつの日か報われる日があると思っております。

最後になりましたが、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。

支部だより

岡山支部

広報担当 森山 学

学友会の皆様、ご健勝のことと存じます。

私共岡山支部は、昨年八月二十二日、広島支部と学友会合同支部会を行いました。

有馬学長、丹地会長をはじめ、大学からも先生方に大勢ご出席いただき、大学の近況、支部会の活動などを話し合いました。

広島支部と合同ということ、最初は緊張していましたが、すぐに打ち解けて、懇親会では、近年の自動車業界や世間話まで、冗談も飛び交う中で大いに盛り上がり、有意義な一日を過ごせたと思



岡山支部・広島支部

います。私個人といたしましても、この支部会を機に新しい取引が始まり、改めて交流の大切さを痛感した次第であります。

ただ、夏休み中ということ、家庭の行事等でご出席いただけなかった会員の方も何名かいらっしゃいましたのが、残念でなりません。

これからも積極的に、他支部との親交を深めて、学友会を盛り上げていきたいと思えます。また、岡山支部では、このところの就職難の折から、地元就職先の紹介及び、地元学生の中日本自動車短大への進学への推薦等、学生募集への協力も行ってあります。

最後に、会員皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

静岡支部

支部長 中山 繁

静岡支部役員会並びに同窓会が、ミニシアム年四月二日、静岡桜祭りにて賑わうホテルアソシア静岡タワーミナルで開催されました。

東は伊豆、西は浜松より出席していただき、大変有り難うございました。また、学友会会長はじめ、学校関係者の出席もいただき、心からお礼申し上げます。

役員会では、最近の学校の現状等、意見が活発に交わされました。特に時間を忘れるほど熱心に話し合ったのは、少子化が進む中で、学生をどの様に援助していけばよ



静岡支部

いのかという問題です。現役学生とOBとの交流をどのようにしたら良いか、現在の就職難をいかにしてOBがカバーしてあげるかを議論しました。その結果、「静岡県人会を作ろう」、「現役学生との交流会を開き、彼らがスムーズに就職を決められるよう、できる限り協力しよう」と決められました。こうした活動の結果、支部活動により多くの人が参加して下さいるようになれば、幸いと思えます。

また、静岡県は東西に長い県です。東部、中部、西部の三地区に役員を数名ずつ置き、一年に数回、役員会を行うことも決めました。

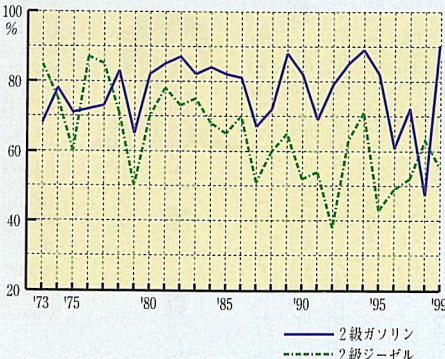
今後とも支部の活性化を図っていききたいと思えます。

認定試験の合格率

技術研修課

毎年行われる二級整備士認定試験の結果を報告します。今年度は第三十二期の学生が三月二十六日に受験しました。合格率は、二級ガソリンが九〇・一%、二級ジーゼルは五六%となりました。両試験とも例年並みの出題傾向でありましたが、二級ガソリンでは出題ミスがあり、全体的に合格率高くなりました。二級ガソリンにおいては、本学始まって以来の高い合格率でしたが、二級ジーゼルの合格率が昨年を下回っていることを考えれば、手放して喜ぶことはできません。来年度も高い合格率が得られるよう、全力で取り組んでいきたいと思っています。

最後に、学友会の皆様方の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。



1999年度

事業計画

- 総会の開催
 - 大学近辺で開催する。開催場所、日程については、役員会にて決定する。
- 会報の発行
 - 会報を発行する。
- 支部設立に向けて
 - 積極的な取組を展開する。また既存の支部の活性化を図る。
- キャンパスグッズの一層の充実を図る
 - 試作品を作る。
- 大学及び理事との懇談会を行う
- 準会員との交流会を持つ
- 10月中頃の予定
- 退職者に記念品贈呈する
- 卒業生に記念品を贈る
- 学友会規約を配布する。
- 3000円程度のを贈る。
- 積立金(学友会館設立積立、奨学金積立)について
 - 継続する。
- 奨学金支給をする
- OBへの福利厚生
 - 長島温泉割引き(適切なものがあれば随時考える)
- 学生募集への協力
 - 同窓生子女推薦等
- 大学主催のエコノパワー大会
 - に、学友会として協賛する

科 目	予算額	決算額	予算超過額 (▲未達額)	執行率 (%)
収入の部				
基金運用収入	80,000	92,212	▲ 12,212	115.3
会費収入	11,000,000	9,820,000	▲ 1,180,000	89.3
事業収入	0	0	0	0.0
雑収入	55,000	40,614	▲ 14,386	73.8
受取利息	55,000	40,614	▲ 14,386	73.8
雑収入	0	0	0	0.0
当期収入合計(A)	11,135,000	9,952,826	▲ 1,182,174	89.4
前期繰越収支差額	35,234,502	35,234,502	0	0.0
収入合計(B)	46,369,502	45,187,328	▲ 1,182,174	97.5
支出の部				
事業費	7,400,000	5,399,373	▲ 2,000,627	73.0
会報制作費	1,800,000	1,655,945	▲ 144,055	92.0
特別企画費	1,500,000	708,328	▲ 791,672	47.2
記念品費	2,700,000	1,789,200	▲ 910,800	66.3
支部活動費	200,000	0	▲ 200,000	0.0
広報費	100,000	249,900	▲ 149,900	249.9
※予備費充当	149,900			
補助金	50,000	100,000	▲ 50,000	200.0
※予備費充当	50,000			
福利費	500,000	496,000	▲ 4,000	99.2
奨学金	500,000	400,000	▲ 100,000	80.0
事業雑費	50,000	0	▲ 50,000	0.0
30周年特別事業費	4,000,000	2,362,500	▲ 1,637,500	59.1
30周年寄付金	0	0	0	0.0
30周年記念事業関連経費	4,000,000	2,362,500	▲ 1,637,500	59.1
会議費	1,750,000	1,335,378	▲ 414,622	76.3
総会費	450,000	309,449	▲ 140,551	68.8
役員会費	100,000	100,699	▲ 699	100.7
※予備費充当	699			
役員会旅費	1,200,000	925,230	▲ 274,770	77.1
役員懇親会費	0	0	0	0.0
事務費	2,200,000	2,183,166	▲ 16,834	99.2
人件費	410,000	410,000	0	100.0
通信印刷費	1,500,000	1,446,040	▲ 53,960	96.4
事務用品費	20,000	46,256	▲ 26,256	231.3
※予備費充当	26,256			
事務雑費	30,000	48,070	▲ 18,070	160.2
※予備費充当	18,070			
事務機器維持費	0	0	0	0.0
事務機器リース費	240,000	232,800	▲ 7,200	97.0
雑支出	70,000	13,853	▲ 56,147	19.8
慶弔費	20,000	3,853	▲ 16,147	19.3
退職者慰労金	50,000	10,000	▲ 40,000	0.0
基金財産設定支出	1,000,000	0	▲ 1,000,000	0.0
学友会館建設基金	0	0	0	0.0
奨学金積立基金	1,000,000	0	▲ 1,000,000	0.0
予備費	500,000	244,925	▲ 255,075	49.0
当期支出合計(C)	16,920,000	11,294,270	▲ 5,625,730	66.8
当期収支差額(A)-(C)	▲ 5,785,000	▲ 1,341,444	4,443,556	23.2
次期繰越収支差額(B)-(C)	29,449,502	33,893,058	4,443,556	

※予備費は充当先を示す

1998年度 収支計算書

1998年8月1日～1999年7月31日 (単位:円)

貸借対照表

1999年7月31日現在 (単位:円)

科 目	前期(A)	当期(B)	増 減 (A)-(B)	増減率 (%)
資産の部				
流動資産	31,355,293	29,941,037	1,414,256	4.5
現金	34,951	16,612	18,339	52.5
普通預金	12,430,318	11,004,244	1,426,074	11.5
定期預金	18,890,024	18,920,181	▲ 30,157	▲ 0.2
固定資産	44,036,146	44,128,358	▲ 92,212	▲ 0.2
特定目的資産	42,558,435	42,650,647	▲ 92,212	▲ 0.2
学友会館建設定期預金	27,647,563	27,709,948	▲ 62,385	▲ 0.2
奨学金積立定期預金	14,910,872	14,940,699	▲ 29,827	▲ 0.2
有形固定資産	1,477,711	1,477,711	0	0.0
器具備品	1,477,711	1,477,711	0	0.0
資産の合計	75,391,439	74,069,395	1,322,044	1.8
負債および正味財産の部				
負債	0	19,400	▲ 19,400	0.0
流動負債	0	19,400	▲ 19,400	0.0
未払金	0	19,400	▲ 19,400	0.0
正味財産	75,391,439	74,049,995	1,341,444	1.8
(うち特定目的資産)	42,558,435	42,650,647	▲ 92,212	▲ 0.2
(うち正味財産増加額)	557,091	▲ 1,341,444	1,898,535	340.8
負債および正味財産の合計	75,391,439	74,069,395	1,322,044	1.8

監査報告書

1998年度の学友会会計に関し、貸借対照表および収支計算書を平成11年9月6日に総動定元帳及び各種帳票類と照合し監査した結果、適法且つ適切でありました。

監査役 吉田 豊彦



監査役 榎原 和明



在校生より



専攻科
土屋 寛さん

専攻科に入学して一年以上が経ち、最大の難問の卒業研究のテーマも無事に決まって、充実した学生生活を送っています。

研究のテーマというのは、「レーザー溶接の引張せん断疲労試験」。レーザー溶接というのは、現在、自動車に最も多く使われているスポット溶接とは異なり、連続した「線」での溶接が可能という新技術。もちろん、最初はレーザー溶接なんて聞いたこともなく、何も分からぬ状態でスタートして、本当に自分たちの力で研究をやっているのか心配だったけれど、いろいろな先生の協力のおかげで、今では専用の試験機を使用して、きちんとしたデータが採れるようになりました。当面の目標は、基礎的なデータを採り、試験片を供給してくれたトヨタ自動車への中間報告をすること。自分たちの研究が自動車技術の最前線で働く人たちの目にどのように映るか、とても不安だけど、一度乗ってしまった船なので、できるだけのこと

はやっていきたいと思っています。



二年生
繁野 慶一さん

大学に入学してから、早一年が経ち、友達もたくさんできて、毎日がとても楽しい学生生活を送っています。

高校は普通科でしたが、車に興味を持っていて私は、いろいろ悩んだ末に、この中日本自動車短期大学に入学しました。入学した当初は、高校とは違い自分の好きな車に関する勉強だけでなく、専門的な内容なので不安でした。

一年生の時にやった、エンジンの分解・組み付けの実習では、初めて車のエンジンの内部を見ることのできて、とても感動しました。二年生では、授業内容も難しくなってきましたが、今やっている機械工作実習では、「物作り」の楽しさ、難しさを体験することができ、それは自分自身が技術を修得するという意味で価値のあることだと思っています。

私はこの大学に入って本当に良かったと思います。残された大学生活を有意義に過ごし、二級整備士の資格を取得するために、勉強に励もうと思っています。

編集スタッフより

学友会会報十九号発行にあたり御協力いただきました方々に心より厚く御礼申し上げます。